

* 研究目的

甲南大学は、「個性を力へ。」を学生教育の主眼に置きつつ、「徳育・体育・知育」の実践による人材育成を続けてきている。また、教育基本方針として、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーを各部局ごとに策定し、これを理念としている。一方で、わが国を含め世界的に見ても社会基盤が大きく変化を遂げた1990年代に生まれ、中等教育を受けて育ってきた世代が学生の大半を占めるようになりつつある。20世紀後半、特に1980年代以降に大学教育を受けた世代が教員組織の中核的立場になってきている現在、学生自身の意識の変化は大きく変貌を遂げており、教員が学生であった時期の経験に基づく教育現場と比較すると隔世の感があることは否めない。このような時代の流れを受けて、教育する対象である学生の心の拠り所の変化に対応できる「学生の心に響く大学教育とは何か？」について、本学の事例を中心に調査研究し、本学の教員がもっている教育哲学について包括的にまとめ、本学の教育水準を高めるとともに持続的な人材育成に貢献する。

* 研究チームメンバーと研究課題

渡邊 順司	甲南大学理工学部 機能分子化学科 准教授	研究幹事を担当するとともに研究内容の企画立案をし、「大学教育における管理と放任について教員へのヒアリングによる調査研究」を行う。また、菅教授の研究テーマの推進をサポートする。
菅 康弘	甲南大学文学部社会学科 教授	「学生との座談会における修学意識を左右する本質についての研究」をおこなう。